

なるほど 水彩画 の描き 方



「今度の造形展、どんな紙に描かせようかな。」
「子どもに助言を求められたけど、どう指導したらよいのかな。」
「バックはどう指導すればよいのかな。」
なるほどよくある質問です。
しかし…私には、どれも無意味な質問に聞こえます。
それは…
「水彩画の描き方」を知れば自然と答えが導かれるからです。

- 須賀川市立仁井田小学校 國井 伸行
- 平成25年7月25日(木) 岩瀬地区小教研図工部会

なるほど水彩画の描き方

1 水彩画 (Watercolor) は、もっと表現の幅がある

水彩絵の具は、小学校第3学年で、主たる教材として取り扱われる。小学生にとっては身近で扱いやすい描画材である。しかし、その特性を生かすとさらにより作品になると思われる作品が多い。水彩画の描き方を透明水彩と不透明水彩的描き方と透明水彩的描き方に区別して指導してやると、さらに的確な指導ができるのではないだろうか。



■ 透明水彩的と不透明水彩的。それらをしっかり区別して、指導できればそれぞれのよさを生かした指導ができるのではないだろうか。

2 「ぬりえ」的な描き方ばかり

①鉛筆で線描きをする。②線の中を絵の具で塗る。③バックを塗る。…よくある絵の描き方である。この「ぬりえ」的な描き方は、とにかく、時間と根気が必要である。でも図画工作科の配当時間は少ない。しかも工作にばかり時間がとられる。どうするか。

■ とにかく線画が上手な子どもは実にたくさんいる。ところが、それに色を重ねると…残念な結果になってしまった例は数えきれないほど知っている。



絵を描く過程は一通りではない。少なくとも私は、あと2通りの描き方を知っている。

※無料ぬり絵サイトより転載

3 線を描かずに絵が描けるのか

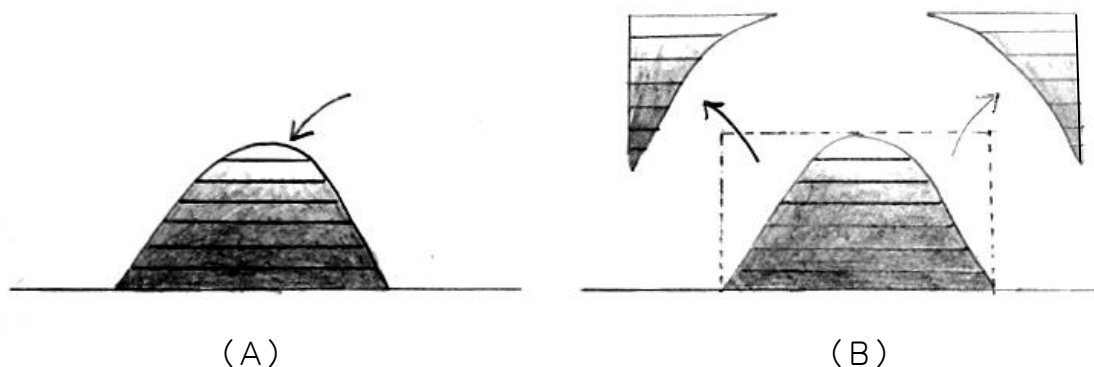
線で描こうとはせずに、面で描く。ちょうど色画用紙でくまの顔の形を切り取り、その上に目、口、鼻を切り取って上に貼っていくイメージである。

■ 色画用紙が絵の具の色である。

このとき、線を描かずに、境界を表すには、色や明度の違いを利用する。赤い色画用紙に赤い色画用紙を重ねても形は現れないが、それがうす桃色の色画用紙だったらどうであろうか。はっきりと形が現れる。これをイメージすると次のようになる。

(A)

(B)



立体に置き換えてみると、分かりやすい。(A) (B) も最終的には同じ立体ができていますが、(A) が積み重ねていったのに対して、(B) はまわりを削っている。

これを絵に話を戻してみると、(A) は、暗い色に少しずつ明るい色を重ねて立体を表した。(B) は、明るい色のまわりを少しずつ暗く塗り重ねて最終的に立体を浮かびあがらせた。

- 重ねて積み上げる描き方は、低学年から中学年向き。(不透明水彩)
- まわりを削る描き方は、高学年から中学生向き。(透明水彩)

ちょっとワンポイント!

- (1) レイヤリング・・・不透明水彩、ポスターカラー、油絵
レイヤリングとは、不透明または、半透明の色を塗り重ねる技法である。
- (2) グレイジング・・・透明水彩

- 不透明水彩的描き方は、暗い色から塗ると描きやすい。**色を明るくするには、絵の具の白を使う。**

つまり、はじめから暗い色の紙を使えば、さらに描きやすい。

- 透明水彩的描き方は、明るい色からだんだん暗い色を塗り重ねていくと描きやすい。**絵の具の白は使わないで塗り残す。**

つまり、白い色の紙を使い白は紙の色を使う。

「最初の疑問。どんな紙を使うのか。」は、どんな描き方をするのが決まれば自ずと決まるのである。

「バックの描き方」も描き方による。不透明水彩的描き方では、はじめにすべてバックを塗ってしまうやり方もある。色画用紙づくりで造形遊びをしたあと、見立て遊びをして絵を描いていく方法もある。

- 絵の描き方の原理さえ分かれば、あとは指導者の工夫次第

4 絵を描いてみよう

(1) 透明水彩で葉っぱを描こう・・・カラーセロファンを重ねていく感覚で

① 輪郭、葉脈を薄く鉛筆で描く。鉛筆の線が残らないように薄く。

② 刃の一番明るい色を塗る。乾かす。

“ポイント” 一番明るいハイライト(白く光っている部分)は、塗り残す。

③ 次に明るい部分を塗る。乾かす。

“ポイント” 二番めに明るい部分は、塗り残す。

※ この繰り返し

④ 最後に一番暗い部分を塗ったら出来上がり。



(2) 不透明水彩で葉っぱを描こう・・・色画用紙を重ねていく感覚で

① 葉全体を一番暗い色でぬる。乾かす。

② 少し白を混ぜ、次に暗い色の部分をさがし、塗る。乾かす。

③ さらに少し白を混ぜ、次に暗い色の部分をさがし塗る。

※ この繰り返し。

④ 最後に一番明るい部分に白を塗ったら出来上がり。



(2) 空を描こう

① ウエット・オン・ウエット技法を使い、空全体をグラデーションでぬる。

② 雲は、ティッシュを丸めて、そっと絵具をふき取る(ふき取り技法)



(3) 海を描こう

① はじめ空を描く。(遠景)

② 次に遠くの海を描く。(中景)

③ 波を描く。(近景)

“ポイント” 風景は、遠景から描く。



水彩画家 國井伸行のホームページ

・・・「Yahoo!」や「Google」で「國井伸行」で検索すると出てきます。